

平成27年度京都広報賞受賞作品の概要

広報紙・市の部

京丹後市 広報きょうたんご 12月号

知事賞



冊子作成のレベルは非常に高く、一冊を通してきちんとマネジメントされ読み応えのあるものとなっていると高評価を得た。取材もしっかりできており、写真の絵づくりにも非常にこだわりが感じられる。ここからもう一歩前進させるため、デザイン、コピーなど表現のブラッシュアップをさらに重ねてほしいとの講評があった。

京都市 きょうと市民しんぶん 10月1日号

会長賞



これまでの問題を抽出し、課題設定した上でチャレンジしていることは素晴らしく、イラスト等を活用した新たなターゲット獲得への意欲が感じられるとの評価。可読性やホワイトスペース部分など細部にこだわりつつ、さらに思い切って舵を切るチャレンジをしてほしいとの講評があった。

広報紙・町村の部

宇治田原町 広報うじたわら「町民の窓」9月号

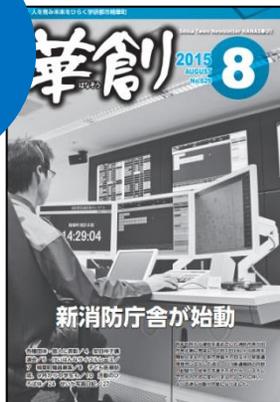
知事賞



真っ正面から「戦争」を取り上げた号。その大きなテーマを身近なものとするため、地元の住民に取材し、臨場感あふれるコピー、工夫と努力が感じられるエディトリアルデザインや写真の構図などにより、老若男女が読み込んでしまう「心にしみる」広報紙である。各企画も内容に沿った作り込みがなされており、全体として本質がていねいに伝わってくるものとなっているとの高評価を得た。

精華町 「華創」8月号

会長賞



表紙から2～3面を開いたときの流れがよく、思わず読んでしまう工夫がなされている。ルールに基づいて大量のコンテンツをきちんと整理され、全体が読み通しやすくなっているとの評価。コーナーごとのメリハリをもう少しつけることができれば、より読みやすくなるとの講評があった。

写真・1枚写真の部

知事賞

京丹後市 広報きょうたんご7月号 表紙 (高倉 遼さん)



夜景写真はバランスを取るのが非常に難しい中で、夜光虫、星空、人工光の3つが美しい1枚の写真の中に閉じ込められており、「我が町の観光スポット」の撮影に対する、日々の情報収集も含めた執念、こだわりが功を奏している。夏らしい涼しげな表紙となっていると高評価を得た。

会長賞

与謝野町 広報よさの 6月号 表紙 (和田 直樹さん)



舞台の華やかさに加え、子どもたちの緊張感までもが写し出されており、地域の祭への誇りがしっかりと伝わってくる表紙写真。光の加減が難しい写真であるが、印刷でのフォローもしっかりできているとの評価を得た。

写真・組み写真の部

広報まいづる 12月号 2～3ページ
(植和田浩行さん、高橋真也さん)

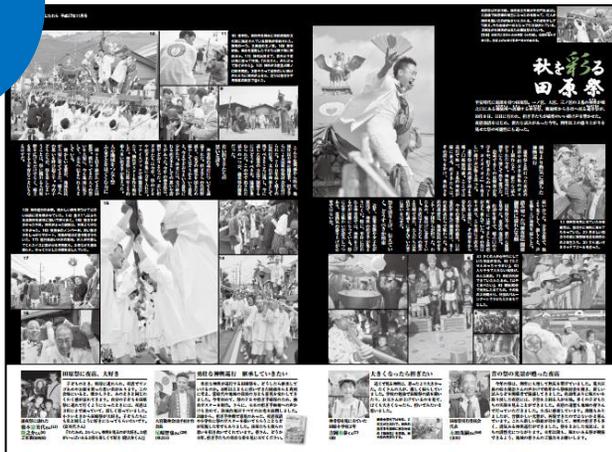
知事賞



参加した各団体がまんべんなく撮影され、バランスよく配置されることによって総合防災訓練の連帯感がしっかりと表現されている組み写真。各カットの完成度も高く、訓練の必要性や心強さが伝わってくるものとなっているとの高評価を得た。

会長賞

広報うじたわら『町民の窓』11月号 6～7ページ
(勝谷 聡一さん)



メリハリの効いたレイアウトが効果を発揮し、祭の躍動感、盛り上がりが伝わってくる組み写真。「みんなが楽しそうに祭をやっている」姿が住民目線ととてもよく表現されているとの評価を得た。

映像の部

南丹市 「美山かやぶきの里 北村への想い」

知事賞



今回、群を抜いている出来。単なる「観光PR映像」ではなく、「過疎や地域づくりに悩む地域に活力を与えるための映像」というコンセプトが素晴らしいものとなっていると高評価を得た。

制作者も美山を心から愛しているからこそ取材先の方々と思いを共有し、思いが1つになった最高傑作であり、集落の方々の努力・守る意義・想いが強く伝わる映像。「かやぶきの里」もよく見るアングルのカットだけではないさまざまな位置から撮影されており、視聴者に驚きと感動を与えることに成功している。

会長賞

亀岡市 「穴窯に魅せられて」



亀岡市の魅力を伝えるにあたり「ふるさと亀岡を愛し、亀岡でがんばる人」をクローズアップする中で、ポピュラーとは言えない「穴窯」に着眼した点が素晴らしく、そこを入りに「水」「山」「森」など自然豊かな亀岡市をしっかりと表現出来ているとの評価を得た。地元で仕事をする女性を取材ターゲットにしたことは、穴窯の魅力だけではなく、彼女にこの仕事を選ばせた亀岡の魅力が凝縮されている。

府民賞

京丹後市 広報きょうたんご 12月号

※府民から見た広報紙の読みやすさ、見やすさをweb投票によって決定。



写真のクオリティが高く、雑誌のようなデザインであり、ストーリー性もあって非常に読みやすいものとなっているとの意見が多かった。表紙もインパクトがあって興味をひかれる。それぞれの記事の編集方針がしっかりしていてよくまとまっており、若者の働く姿がとても印象的に表現されているとの高評価を得た。